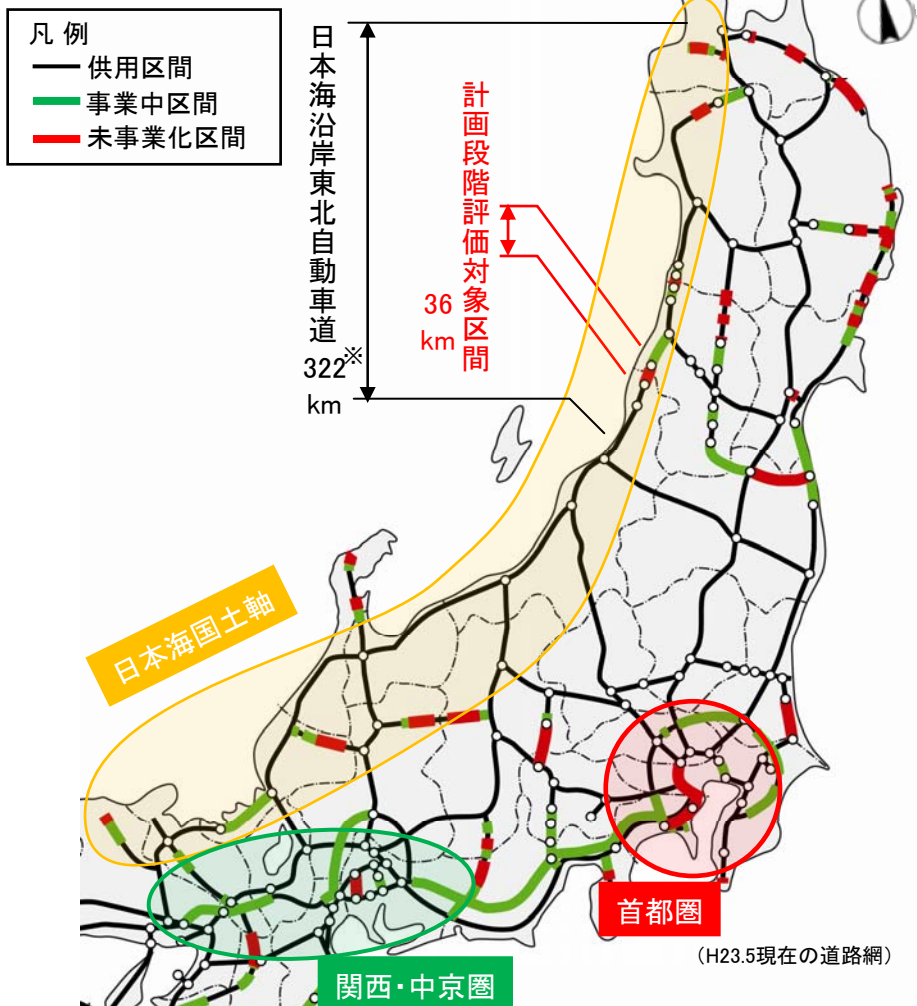


1. 地域の状況と課題

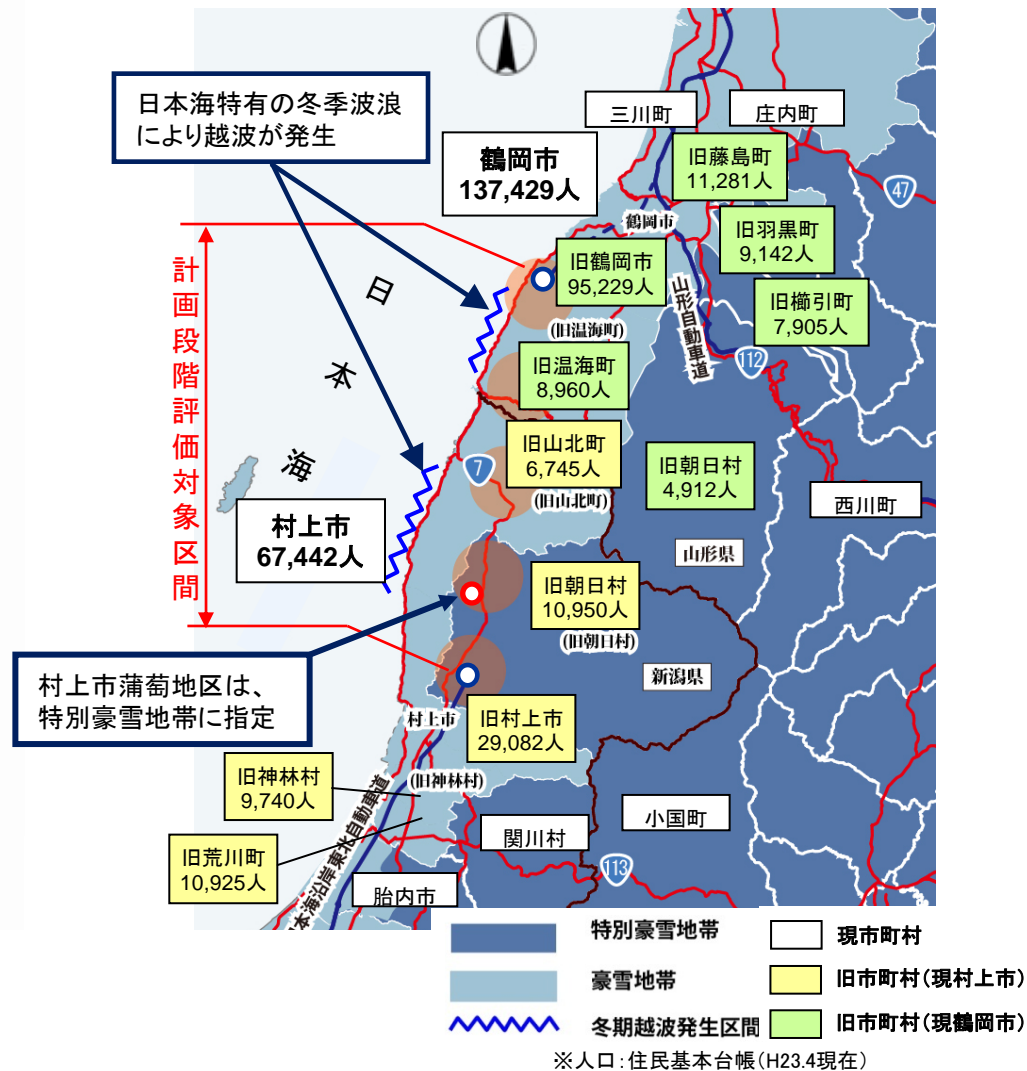
1-1 位置

- ・当該区間は、日本海国土軸を形成する日本海沿岸東北自動車道の一部。
- ・沿線市町村は、豪雪地帯である山間部や冬期波浪による越波が発生する海岸部に位置している。

● 広域図



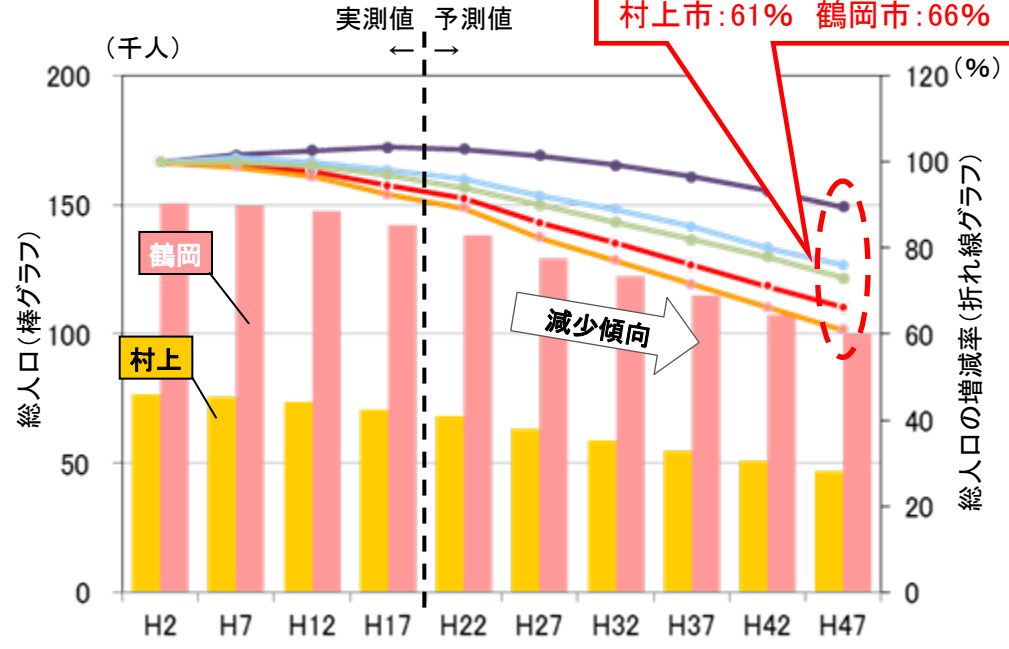
● 市町村位置



※東北横断自動車道酒田線、東北横断自動車道釜石秋田線、東北縦貫自動車道弘前線との重複区間は除く。

- ・村上市、鶴岡市は、H2年度を基準とすると人口が減少し高齢化が進んでいる。
- ・全国や県の平均と比べ、人口減少および高齢化が著しい。

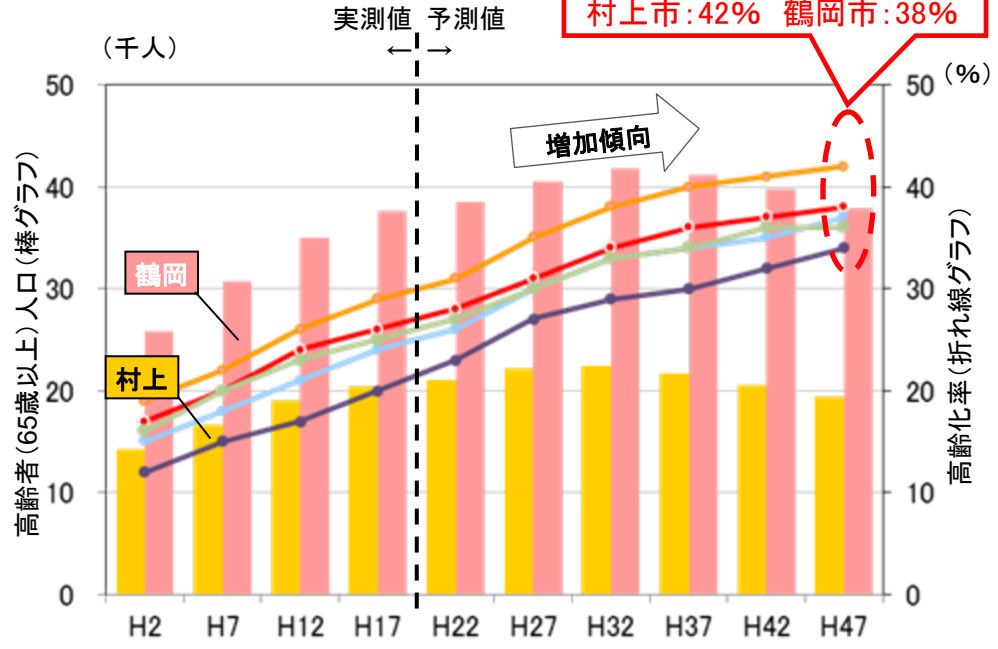
●人口の推移



総人口の増減率
 全国:90%
 新潟県:76% 山形県:73%
 村上市:61% 鶴岡市:66%

	村上市人口
	鶴岡市人口
	全国
	新潟県
	山形県
	村上市
	鶴岡市

●高齢者の推移



高齢化率
 全国:34%
 新潟県:37% 山形県:36%
 村上市:42% 鶴岡市:38%

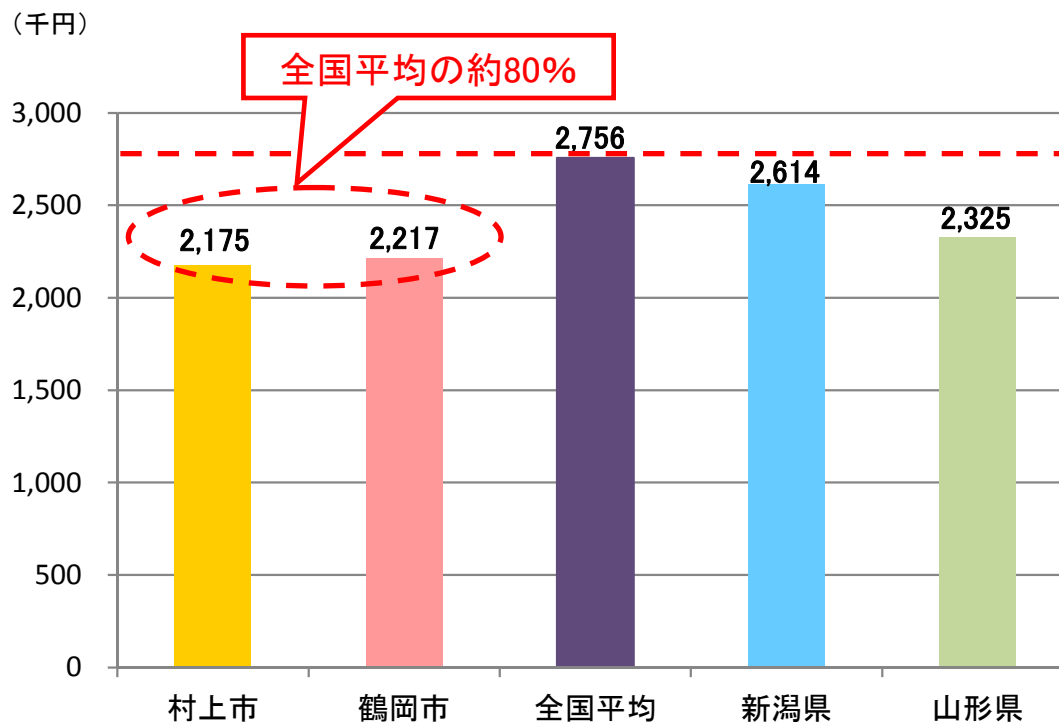
	村上市高齢者人口
	鶴岡市高齢者人口
	全国
	新潟県
	山形県
	村上市
	鶴岡市

※総人口の増減率は、H2を基準として算出
 ※市町村人口は、H23.4現在の市町村区域で集計
 ※高齢化率:総人口に占める高齢者の割合
 算定式:高齢者(65歳以上)人口/総人口

出典:国勢調査、将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)

・村上市、鶴岡市の人口1人あたり所得額は、全国平均の約80%と低い状況にある。

●人口1人あたりの所得額



出典：平成20年度 市町村民経済計算果（新潟県・山形県）
全国値：内閣府国民経済計算（GDP統計）

・新潟山形県境地域では60分で第三次救急医療施設に到達できない地域が広く分布。
 (村上市、鶴岡市の人口20.5万人に対して、圏域外人口は約1.3万人。)

● 県北地域の第三次救急医療施設60分圏域

朝日まほろばIC～温海IC(仮称)間
 未供用時の村上市、鶴岡市の
 圏域外人口 約1.3万人

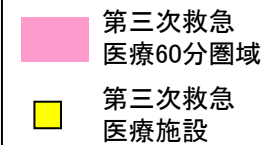
※村上市、鶴岡市の人口:20.5万人

※圏域人口:村上市および鶴岡市の全人口(H23.4現在)

県境部付近で60分で病院に到達できない地域が広く分布

医療圏域算定条件

- (1) 旅行速度
 - ・暫定2車区間 : V=70km/h
 - ・その他区間 : H17センサス旅行速度
- (2) 人口データ
 - ・H17国勢調査メッシュデータ



- ・日本海側ルートは、電子部品や液化天然ガス(LNG)などの広域的な輸送ルートとなっている。
- ・国道7号の通行規制時には、サプライチェーンの断絶や、ライフラインの供給に深刻な影響を及ぼす。

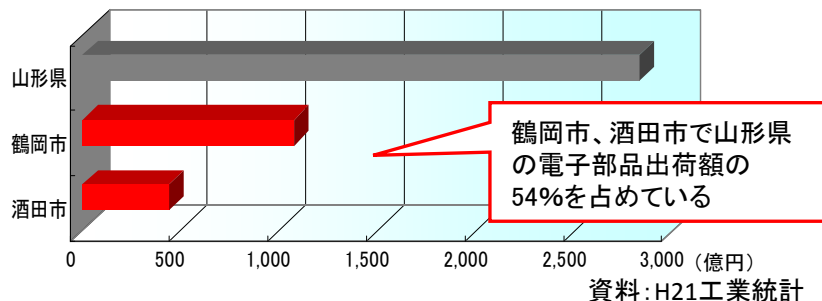
●電子部品(鶴岡市・酒田市) <電子部品の出荷ルート>



(写真はプリンタヘッド)



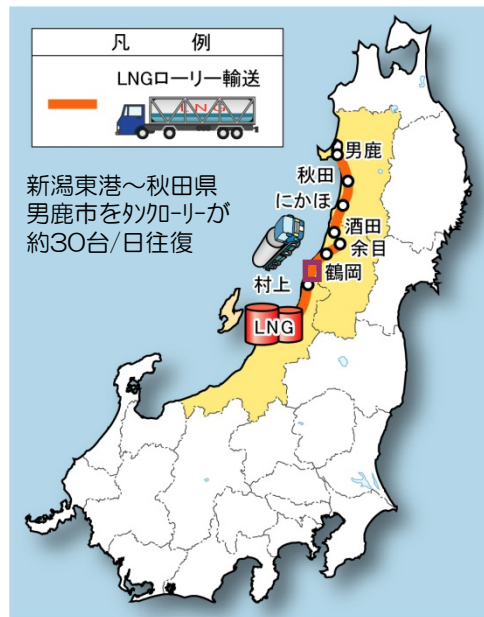
<山形県における電子部品工業出荷額>



●製造ラインを止めないために信頼性の高い輸送環境が必要

当事業所の製品を利用して、関西・九州方面に輸送し、A社の亀山工場が液晶ディスプレイの画面を製造している。製品供給に遅延が生じると製造ラインがストップし完成品の出荷に大きな影響が生じる。(製造業事業者)

●東北における天然ガスの国内輸送状況 ※石油資源開発の事例



・山形県、秋田県は、全て新潟東港から国道7号経由でLNGを輸送

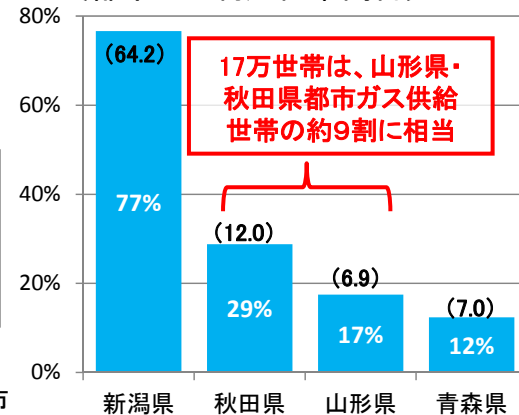
・青森県青森市は、鉄道輸送でLNGを輸送

※新潟貨物ターミナル駅～東青森駅間

国道7号の通行規制によりLNG輸送が1日止まった場合、その量は秋田県と山形県の約17万世帯分に相当

※ 事業者ヒアリング調査より試算
※ 新潟県からの1日あたりの輸送量を都市ガス販売量に換算し、一般家庭の平均的ガス使用量に算出

[都市ガス利用世帯割合]

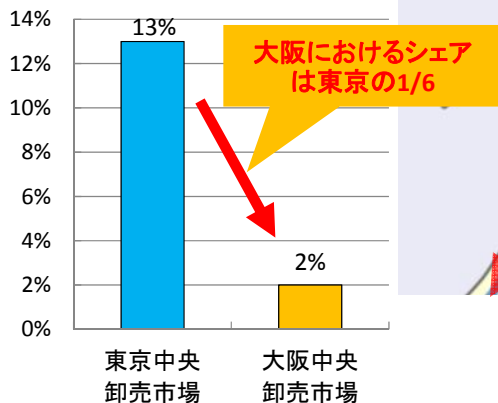


出典: H23日本統計年鑑
()内の数値は利用世帯数(万世帯)

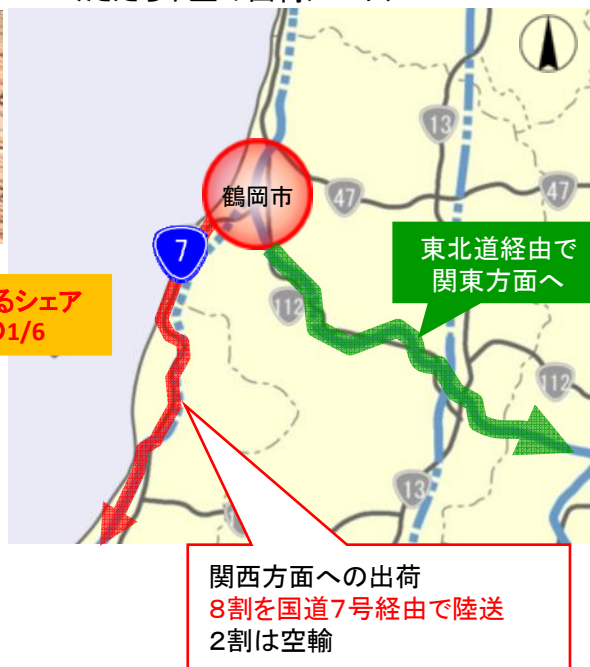
- ・日本海側ルートは、だだちゃ豆や生牛などの広域的な輸送ルートとなっている。
- ・これらの輸送には国道7号を利用しており、だだちゃ豆は輸送時間の短縮や定時性の確保、生牛は搬送時の振動の軽減が課題となっている。

●だだちゃ豆(鶴岡市)

<だだちゃ豆の出荷ルート>

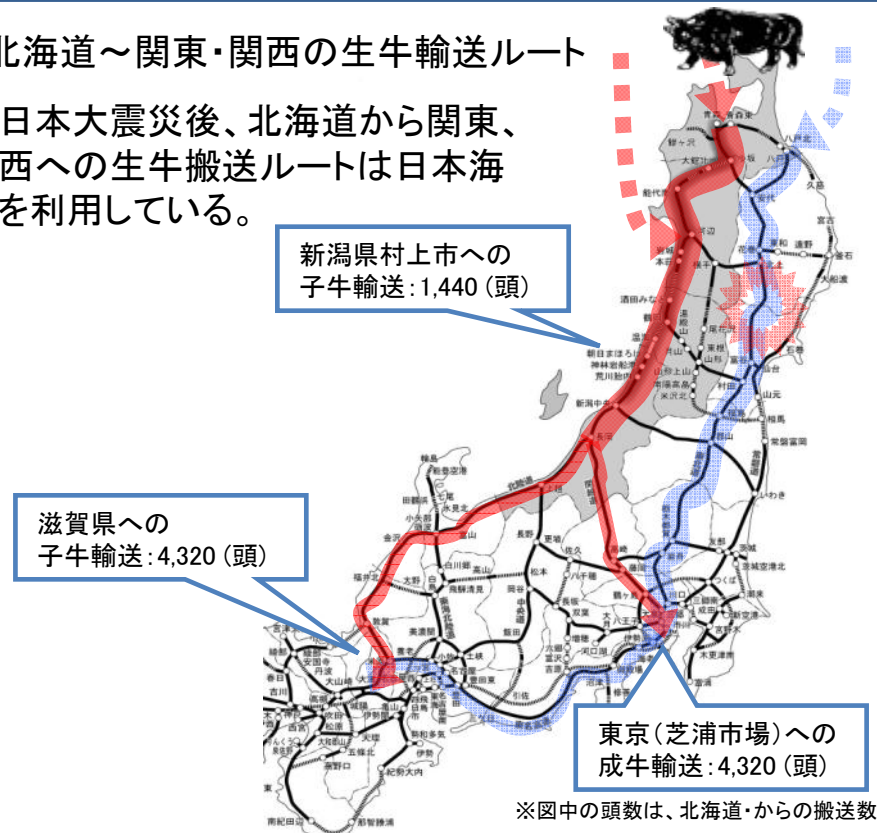


資料: 東京・大阪中央卸売市場HP



●北海道～関東・関西の生牛輸送ルート

- ・東日本大震災後、北海道から関東、関西への生牛搬送ルートは日本海側を利用している。



● 関西方面への販路拡大には安全で確実な物流環境が課題

農産物の流通は、輸送時間の短縮はもとより、到着時間の正確性と到着の確実性が求められており、高速道路を利用した輸送は大きなメリットである。(延着の場合は、売り場に欠品が生じるため、品物が半値になるほどのリスクがある)
(JA全農山形)

● 生牛の品質確保のため振動軽減が課題

牛の搬送に振動は禁物。搬送時に振動が大きいと、牛と牛がぶつかる「あたり」という肉の内出血が発生し、商品価値が低減する。
一般道での輸送は、急カーブや信号交差点での停止などで、子牛への負担が大きい。
(JAにいがた岩船 ヒアリングより)

- ・新潟山形県境付近は、観光資源が豊富である。
- ・県外からの観光客数は減少傾向で日本海側の観光客数の伸びは、太平洋側に比べて小さい。

● 県境付近の主要観光地

【加茂水族館：鶴岡市】



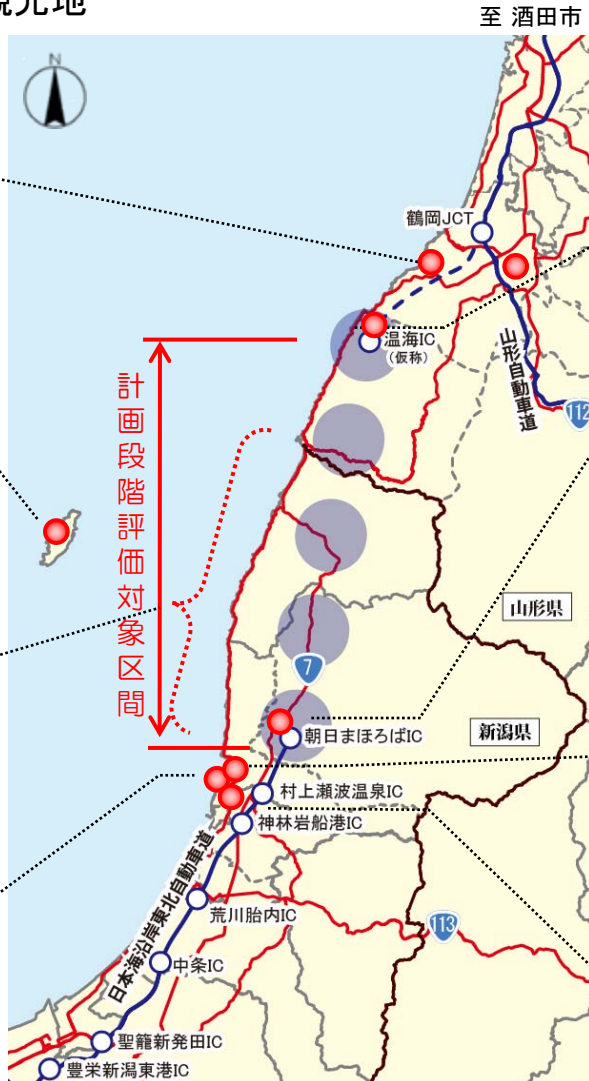
【粟島：粟島浦村】



【国指定名勝天然記念物笹川流れ：村上市(旧山北町)】



【瀨波温泉、瀨波海水浴場：村上市】



【あつみ温泉：鶴岡市(旧温海町)】



【朝日まほろば温泉、みどりの里：村上市(旧朝日村)】



【イヨボヤ会館：村上市】

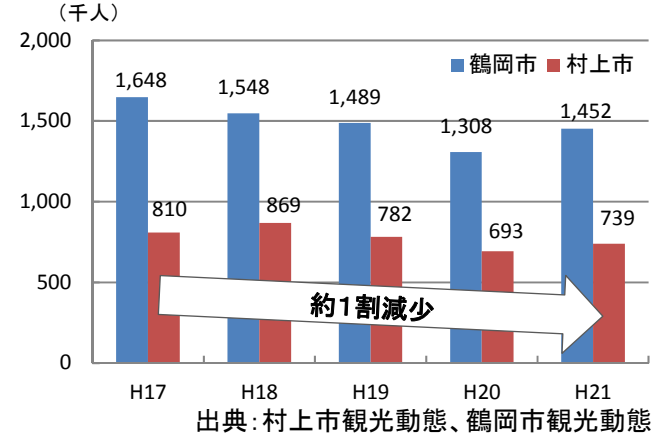


【岩船港鮮魚センター：村上市】



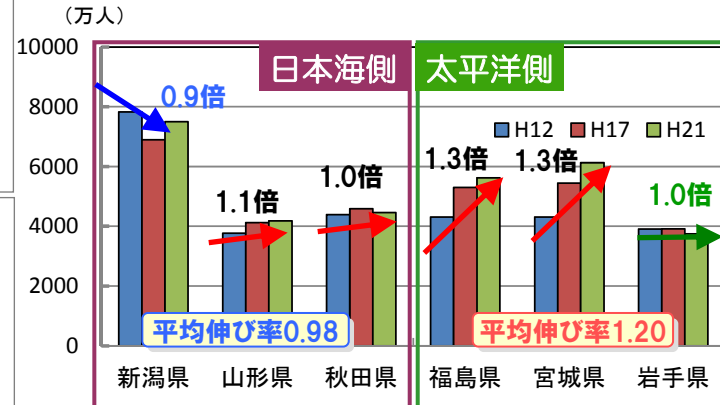
● 県外観光客の推移

・観光入込客数は、約1割減少



● 東北地方の観光入込客数

・観光入込客数は、日本海側の伸びが小さい

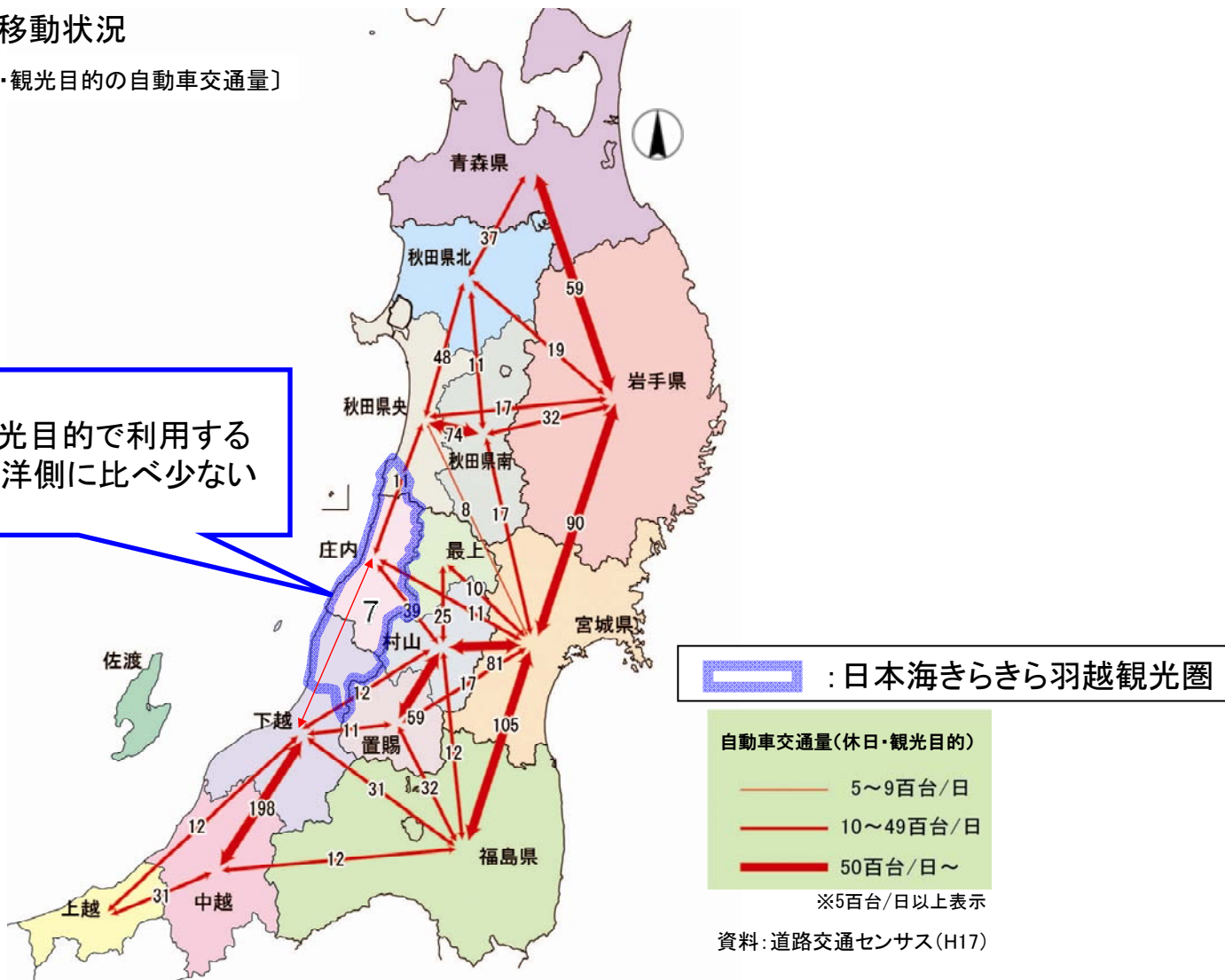


・日本海側の新潟、山形、秋田の3県にまたがる「きらきら羽越観光圏」は、ミッシングリンクが残っていることから、太平洋側に比べ観光目的の自動車交通量は少ない。

●観光客の移動状況

[休日・観光目的の自動車交通量]

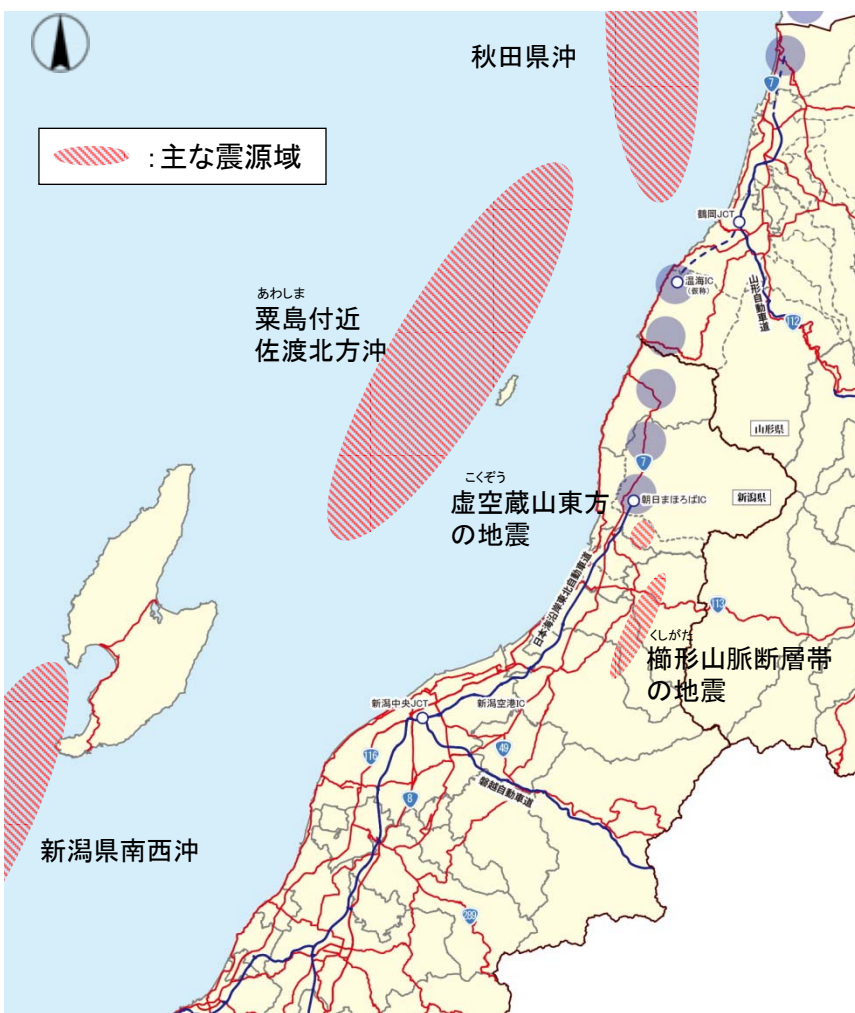
日本海側を観光目的で利用する自動車は太平洋側に比べ少ない



1-7 自然災害の状況

- ・日本海側には多くの震源域が存在し、過去に新潟地震や日本海中部地震などの地震が発生。
- ・これらの日本海を震源とする地震では、日本海沿岸部で津波が発生し、日本海側の広範囲で被害が発生。

●日本海側の主な地震震源域



引用：村上市地域防災計画(H21.8)、
山形県 日本海東縁部の地震活動パンフレット

●過去に新潟・山形県周辺で発生した主な地震(1800年以降)

年月日	名称	発生箇所	規模	主な被害
1804.7.10	きさかた 象潟地震	秋田県沖	M7.0	住家全壊5000棟以上 津波発生の記事がある
1833.12.7	うげん 羽前・佐渡地震	庄内沖	M7.5	津波により日本海側の広範囲で被害、 庄内地方で特に大きな被害、住宅全壊475
1847.5.8	善光寺地震	新潟県 上越地方	M7.4	住家全壊13800棟以上 地滑り被害多発
1894.10.22	庄内地震	山形県北西部	M7.0	住家全壊3858棟、 半壊2397棟、全焼2148棟
1964.6.16	新潟地震	新潟県沖※	M7.5	津波4m以上、住家全壊1960棟、 半壊6640棟、浸水15297棟
1983.5.26	日本海中部地震	秋田県沖	M7.7	津波により日本海側の広範囲で被害、 住家全壊934棟、半壊2115、流出451棟
2004.10.23	新潟県中越地震	新潟県 中越地方	M6.8	住家全壊3175棟、半壊1381棟 地滑り被害多発
2007.7.16	新潟県中越沖地震	新潟県 上中越沖	M 6.8	住家全壊1331棟、半壊5709棟

※新潟県沖は粟島付近を指す

資料：理科年表より作成

●新潟地震(1964.6.16)の村上市の被害写真



引用：むらかみ防災WEB